

「これからの住まいとライフスタイルに関する生活意識調査（平成二〇年）」を実施しました

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所では「住まい・生活」に関して生活者が抱える問題、期待する姿・方向、そのギャップを埋める解決策、今後のあり方などを分析・研究するため、平成17年から「これからの住まいとライフスタイルに関する生活意識調査」を実施してきました。そして、今年初めに四回目の調査を行いました。

その平成20年調査の概要並びにトピックスについての結果を簡単に紹介します。詳細な分析結果については、今後、季刊誌「CEL」誌上やホームページなどで報告していく予定です(ご協力いただいた回答者の皆さま、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます)。

① 調査の概要

調査地域…全国
調査対象…満二歳～七二歳の男女
標本数…一三三八人(内回収数…九六四人、性別…女性五五・七%、男性四四・三%)
抽出方法…層化二段無作為抽出法
調査方法…留置記入依頼法(パネル調査)
調査時期…平成二〇年一月一八日～二月二二日

② 調査トピックス

少子高齢時代の家事・介護

家事の負担感…性別、年代別で負担感に違い。三〇～四〇代女性に強い家事負担感(図1)

家事を「とても負担に感じる」、または「少し負担に感じる」割合は、炊事・掃除がそれぞれ

れ約三八%、洗濯は約二九%、日常の買い物は約三三%でした。性別・年代別の結果を見ると、炊事については三〇代と四〇代の女性の負担感が特に強く、「とても負担に感じる」、または「少し負担に感じる」方の割合は、ともに五〇%を超えています。掃除については四〇代と五〇代の女性の負担感が四七～四八%と強くなっています。

男性は総じて女性よりも負担感は軽いものの、炊事・掃除・洗濯については「とても負担を感じる」、または「少し負担を感じる」方の割合は、四〇代～六〇代で三〇～四〇%とな

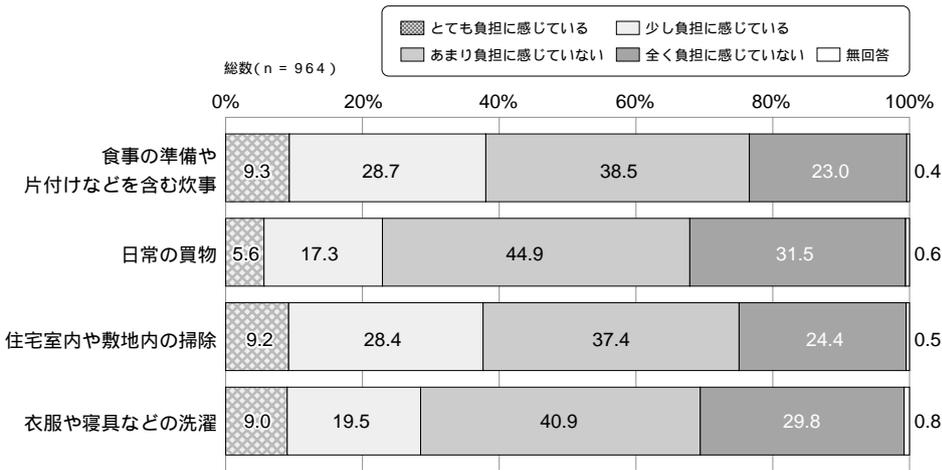


図1 家事に対する負担感

つています。
家事の外部サービス…ニーズの顕在化は一部。利用に対する精神的な抵抗感が存在
 家事の外部サービスを利用している、また

は今後利用を検討したい方の割合は、全体で一八%となっています。利用するための条件として、「費用が安ければ、もしくは家計に余裕が出てくれば」が七六%で最も多く、次いで「満足できるサービス内容であれば」が五四%、「家族のプライバシーや家のセキュリティが保たれるなら」が三九%となっています。

逆に、利用をためらう理由としては、「現状で充分だから」が六七%で最も多く、次いで「費用がかかるから」が四八%、「第三者が家の中に入るの抵抗感があるから」が三七%となっています。利用したいサービスとしては、「屋外の掃除をしてもらう」が二九%で最も多く、次いで「室内の掃除をしてもらう」が二六%、「食材を家に届けてもらう」が一八%となっています。

介護サービス…介護レベルが軽度の場合のニーズに男女差が存在する

将来、自分が介護される立場になった場合、誰に介護をしてもらいたいかについて、年代別にかがいました。介護レベルが「軽度」(要介護度一、二程度)の場合、男性は六四、一%が配偶者に介護をしてほしいとするのに対し、女性は配偶者を望む割合が低く、四三、五%でした。女性は、娘あるいは息子といった血のつながった親族に世話になりたいとする割合が男性に比し、ずっと大きくなっています。特に六〇代以上では男性は八一%が配偶者としているのに対し、女性は四三%と、男女間で特に大きな差が見られます。

一方、「重度」となると、男性、女性ともに専

門の介護スタッフとする割合が高くなり、介護することによる負担の大きさを認識した結果となっています。

生活満足度…引き続き改善傾向が確認できる

初回から継続調査している生活満足度は、去年に引き続き改善傾向が見られました。「非常に満足」との回答が、平成一七年は一・六%、一九年は三・五%、今回(二〇年)は四・六%となりました。「満足」との答えも、同じく、一四%、二二%、二八%と上昇しています。その分、「どちらかといえば満足」が四三%、四二%、三七%と減少し、「どちらかといえば不満」が若干増えたものの、「不満」、「非常に不満」は漸減あるいは横ばい傾向にあります。

二〇二〇年の暮らし像

漠然とした将来ではなく、二〇二〇年という具体的な時期を示し、質問しました。

将来の生活への不安…エネルギーなど、社会的事項にも大きな関心(次ページ図2)

まず、「あなたは二〇二〇年の暮らしで何が心配ですか」と訊ねてみました。「心配である」、「どちらかといえば心配である」と回答した合計(%)で見ると、八〇%を超えたのが、「エネルギー価格の高騰」と「家族の病気や高齢化による介護」でした。七〇%台が「自分自身の肉体的な健康」と「生活を支える収入源」、そし

総数(n = 964)

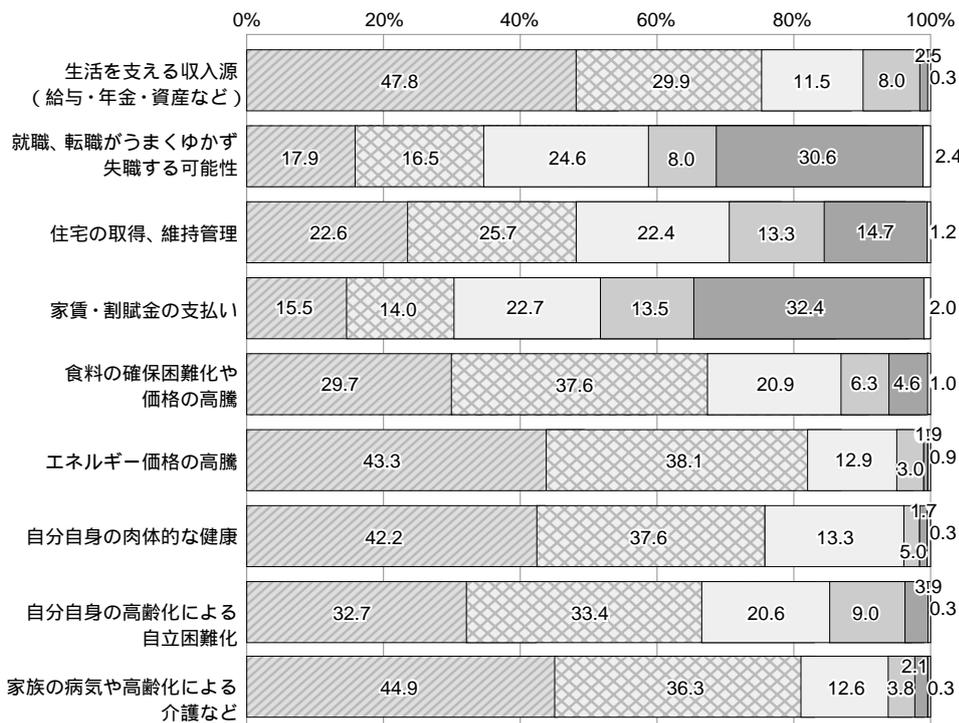
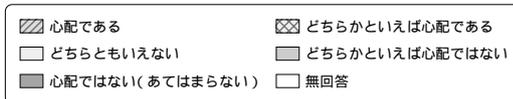


図2 将来の生活への不安

て六〇%台には「食料の確保困難化や価格の高騰」と「自分自身の高齢化による自立困難化」が続いています。
エネルギーや食料の確保・価格高騰への懸念がこれほど大きいことは、注目に値します。

将来の生活への期待…人との交流に期待が大きい(図3)

次に、「あなたは二〇二〇年の暮らしで何が楽しみですか」と期待していることを訊ねました。「楽しみである」、「どちらかといえば楽しみである」の合計(%)

「行きたいところへ旅行する」でした。六〇%台は、五〇%台の回答に「調理や美味しい食事をする」、「趣味や勉強を充実させる」、「今より自由で、余暇が十分ある」が挙げられ、「芸術や芸能など文化に触れる」、「身近なまち歩きやサイクリングをする」が五〇%未満で続いています。

将来の暮らし方…簡単な暮らしと便利な暮らしの両立?

さらに「あなたは二〇二〇年にどのような暮らしをしたいですか」と、個々の心配や楽しみとは別な見方で、生活の

全体イメージを聞いてみました。

最も高い支持を得たのは「健康第一」で九〇%。次いで「自然や地球環境重視」が七二%で、「便利・快適」、「今とあまり変わらない」、「趣味・娯楽」、「簡素・謙虚」が六〇%台で続いています。「健康」は誰にとっても共通の願いであることから別格として、「自然環境を大切にしながら簡素・謙虚に暮らしたい」という希望が支持されています。同時に「便利で快適な暮らしも欲しい」という方向性が違う願望を求める生活者像が描けます。

二〇二〇年の家計…お金は住まいや娯楽に使いたい

二〇二〇年に出費を増やしたい・抑えたい支出項目についてうかがいました。増加志向が抑制志向を二〇%以上上回り、生活者のニーズが大きいと考えられる支出項目は、住宅リフォーム、旅行・レジャー、スポーツ・趣味、貯蓄でした。旅行・レジャー、スポーツ・趣味、貯蓄および家電製品では、男女別・年代別(一〇代刻み)に見ても、各層で増加志向が上回りました。逆に抑制志向が増加志向を二〇%以上上回ったのは、貴金属・時計、外食費でした。これらに加えて、被服が男女別・年代別に見ても各層で抑制志向が上回りました。

男女差で回答がやや対照的な結果となったのが食費(外食費を除く)と交際費で、全体ではそれぞれ抑制が増加を上回っていますが、食費は二〇代・五〇代・六〇代の男性と六〇代の女性では増加が抑制を上回り、交際費は三〇代の男性と二〇代・四〇代・五〇代の女性で

増加が抑制を上回りました。

二〇二〇年のライフスタイル…求める姿は多様

二〇二〇年に期待するライフスタイルと現在の姿を両方答えてもらったところ、肯定的な回答が現在よりも大きく増加したのは、「配偶者と二人で過ごす時間を大事にする」で、現在は四〇%の「そう思う」の回答が、二〇二〇年の予想では六一%に上昇しています。

他に二〇二〇年での肯定的評価が現在よりも多かったのは、「自分ひとりの時間を大事にする」(現在…四六% 二〇二〇年…五四%)、「普及品より二割以上高くても環境に配慮した製品を取り入れる」(二〇% 三二%)、「利便性・快適性を求めるよりも地球環境に配慮した生活を営む」(二六% 四二%)などでした。

食生活…安全・安心、環境配慮などに関心が高くなる

二〇二〇年の自身の食生活についての意向を訊ねました。「現在より食の安全・安心を重視するか」という設問に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答が合わせて七二%、「そう思わない」が四・五%でした。また「現在より環境にやさしい食生活を実践している」に関して、同様に六三%対五・一%となっており、環境にやさしい食生活の志向も高くなっています。

二〇二〇年の家庭の「食費」(外食費を含む全

体)に関して、減らしたい方が二〇代男女、三〇代男性を除く各世代で五割以上あります。食費を減らしたい理由は、「現在の食費が多いと思うから」が五二%、「収入が減るから」も同じく五二%もありました。五〇代以降では、

その理由として男女ともに収入が減るからという回答が多く、男性で約七割、女性で六割以上ありました。

文中のアンケート結果の数値は、一部を除いて小数点第一位を四捨五入しています。

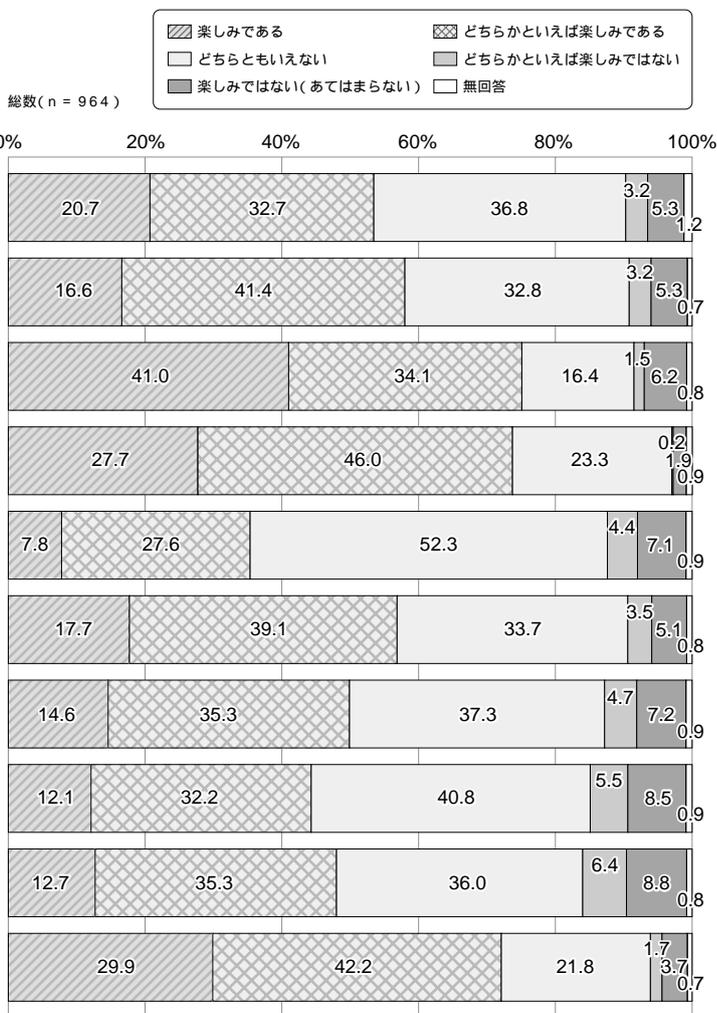
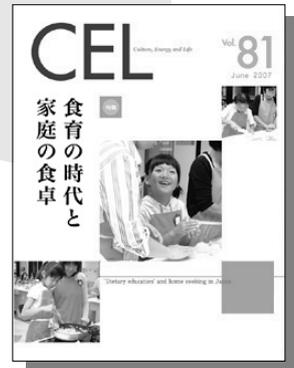


図3 将来の生活への期待

ナンバー	特集タイトル	発行年月
No.84	パブリックスペースのたのしみ	2008年 / 3月
No.83	生活者ができる地球温暖化防止	2007年 / 12月
No.82	現代生活者の住まい・生活観2007 - 持続可能性と生活満足	2007年 / 9月
No.81	食育の時代と家庭の食卓	2007年 / 6月
No.80	まちづくりと地域ブランド	2007年 / 3月
No.79	多様なエネルギーで豊かな暮らし	2006年 / 12月
No.78	生活者の格差論	2006年 / 9月
No.77	新しい居住スタイル	2006年 / 6月
No.76	都市のオルタナティブ・ツーリズム	2006年 / 3月
No.75	現代生活者の住まい・生活観(2)	2005年 / 12月
No.74	現代生活者の住まい・生活観(1)	2005年 / 9月
No.73	都市のソーシャル・キャピタル	2005年 / 6月
No.72	「火」のある暮らしの現在	2005年 / 3月
No.71	「水」で蘇る都市	2004年 / 12月

ナンバー	特集タイトル	発行年月
No.70	都市のストック再生	2004年 / 9月
No.69	「火」の創造力	2004年 / 6月
No.68	「木」がひらく未来	2004年 / 3月
No.67	ロングライフ	2003年 / 12月
No.66	大阪のコスモロジー	2003年 / 9月
No.65	エネルギー選択の時代とは	2003年 / 6月
No.64	エコ・トラフィック・デザイン	2003年 / 3月
No.63	スローライフ	2002年 / 12月
No.62	“創造都市”の時代へ	2002年 / 9月
No.61	分散型エネルギー	2002年 / 6月
No.60	循環型都市への視座	2002年 / 3月
No.59	生活者再考	2001年 / 12月
No.58	都市と景観	2001年 / 9月
No.57	「今、CELが問う」4 エネルギー	2001年 / 6月



<http://www.osakagas.co.jp/cel>

本誌・バックナンバーのコンテンツについてはホームページにてご覧いただけます。



← 本誌・バックナンバーをご希望の方は左記編集室までお問い合わせください。